

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会第7回定例委員会
日時	平成19年5月28日 自 15時04分 至 16時40分
場所	苫小牧市役所庁舎9階第2委員会室
出席委員	委員長 吉本俊憲 委員 佐藤郁子 委員 佐藤守 委員 山田眞久
欠席委員	委員 鈴木正樹
会議録署名委員	佐藤(郁)委員
会議録作成職員	総務課総務係主事 上川裕樹
事務局職員	学校教育部長 澤田石綱紀 スポーツ生涯学習部長 今田和史 総務課長 照井進 総務課副主幹 池淵雅宏 総務課総務係主事 上川裕樹
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（吉本委員長） ……15時04分
2	会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3	報 告（山田教育長）
	・ 5月は比較的天気恵まれ、桜は終わりを迎えようとしている。各学校では、家庭訪問や修学旅行を経て、体育祭や運動会の時期を迎え、1学期の充実期となっている。
	年度始めの子ども・保護者との信頼関係を継続し、よりいっそう開かれた学校を築いてほしいと願っているところである。
	(1) 最近の事件・事故から定例校長会議で話した内容について
	・ 先般、札幌の屯田小学校近くの横断歩道で3人の子どもがはねられ、豊平方面では死亡事故も起きている。いずれも横断歩道を渡っていた事故で、子どもには何の過失もない遺憾な事故であった。本市でも5月に入り登校中の中学生が道路に飛び出し、車と接触する事故が起きているが、幸い軽い擦り傷で済んだようである。こうしたことから、改めて交通安全の呼びかけをお願いしたところである。
	・ 生徒指導上の問題で、林野庁や王子から火災予防の依頼があり先月の校長会議で説明したところであるが、5月に入り野火が勇払・錦岡・山の手方面で発生している。子どもの火遊びが原因らしく、改めて火遊び・花火をしないように呼びかけたところである。
	また、この時期から校舎窓ガラス破損が毎年起きている。数年前から犯人が特定されれば親にガラス代の弁償をさせているが、親が弁償することで結局自分に跳ね返ることから、件数は幾分減ってきている。学校では、規範意識や人に迷惑をかけないなどの指導を重視しているが、道徳的判断力の育成と自己実現を目指す生徒指導とは「心の教育・生き方指導」として両輪をなすものなので、今後も指導の充実を図ること、行動半径が広がる時期なので交友関係などの指導を呼びかけたところである。

(2) 北海道都市教育長会議・全国都市教育長会議総会と研究会への参加報告について

・ 5月10日に帯広市で開かれ、全道35市中30市が出席し、主として19年度の文教施策要望事項、役員選考・事業案件を協議している。この席で例年8月下旬に今年是小樽市で開催される「都市教委連・教育長会定期総会」の日時が発表されるのだが、まだ決定していない。また、20年度の開催地は道東ブロックとなり、帯広・北見・紋別・網走・釧路・根室のいずれかになるが、今後調整があると思われる。なお、20年度秋の教育長だけの総会を苫小牧で開催したいとの打診があり、現段階で内諾の返答をしている。

・ 5月24日から25日に全国都市教育長会総会と研究会が山梨県笛吹市で開かれ、参加した。総会・文部科学省講話(合田官房審議官代読)・記念講演に引き続き、教育行政・学校教育・社会教育の三部会に分かれて詳しい説明を文部科学省主任視学官から聞くことができた。教育基本法・学習指導要領改定状況・特別支援教育・学力テスト・学校評価など今日の問題が山積している中、大変参考になった。質問が多数出たが、法案が成立していない段階なのでコメントできないという回答が多かったのが残念であった。今後、このことについて機会があれば話したいと思っている。

(3) その他

・ 先般、全道高校・中学・小学校校長会議での吉田道教育長の挨拶が北海道通信等で伝えられたので紹介したい。まず、三点にわたり学校経営上のお願いとして、1つは法令順守の徹底、背景には「いじめ・単位未履修、免許外教科担任の問題など」がある。2つ目は道教委と一体になった学校経営の推進、これもいじめ問題を含め学校への行政指導が不十分という批判が背景にあり、校長や学校が問題を抱えこまないで相談し、一緒に課題を解決したいということである。3つ目は信頼と努力に基づいた学校経営、何かを推進するためには教員の理解が不可欠だが、そのための努力(コミュニケーション、人

間関係の構築)をした上で、毅然とした責任者としてのリーダーシップを発揮していた
だきたいというものであった。
・ さらに、以下の点について、特に留意してほしいということで述べられている。
1. 教職員の資質・能力の向上
2. 服務規律の厳正な保持～規範意識の欠如・信用失墜行為（懲戒免職が過去最高）
3. 確かな学力の育成～基礎・基本の定着と指導内容や方法、評価の工夫・改善
4. 全国学力・学習状況調査～結果を生かした学習指導の改善・充実を図る
5. 生徒指導の充実～いじめ調査結果への対策、早期発見と地域ぐるみで健全育成の
取組
6. 学校安全の充実～安全推進会議の開催、関係機関と連携した地域ぐるみの推進
7. 心の教育
8. 健康教育
9. 食育
10. 特別支援教育～学校支援体制の整備と研修、教育的ニーズに応じた支援の推進
11. 新たな高校づくりの指針と高校配置計画～子ども達にとってのよりよい高校教育
12. 北海道教育ビジョン策定～20年度からの長期総合計画を策定するので協力を
・ この中で新たな高校づくりの指針と高校配置計画について、4月26日に胆振東部の地
区別検討委員会を開き、毎年どういう行動を起こすかということを検討しているが、そ
の前に、新聞報道で胆振東部地区0から1クラス減と掲載されたことから、急遽、今月
22日に高校適正配置検討委員会を開き、高校の校長先生、PTAの代表の方、中学校
と色々な意見を聞き、今年も意見を具申していくということで、お手元に配布した「適
正間口の確保」という要望書を改めて来月6日に道教委へ提出することを確認したので、
委員にもご理解いただきたい。

(吉本委員長) ありがとうございます。只今、教育長の方からご説明がございました。
これに関して、今日は当初申し上げるべきだったかとは思いますが、鈴木正樹委員さんが欠席しておりますけれども、両佐藤委員さん、何か関連してのご質問があればお受けしたいと思います。佐藤郁子委員さん、特に大学との関係なども含めて、今回、高校の適正間口の関係で陳情をするという事で、手元に書面がございますけれども、何かご意見とございますか、
苫小牧市教育委員という立場で、何かご発言ありますか。
(佐藤郁委員) 確保をお願いするということは、とてもよろしいことだと思います。少子化ですが、進学する生徒の教育上、少人数で教育力を高めた方がよろしいかと思えます。ただ、それぞれの方針もあることだと思いますが、昨年度南高校が間口減の対象となりまして、その進学相談のことも含めまして、
学校の先生の立場としては、生徒の指導よりも自分達が今後どうなるのかという心配も出てくるので、本来、学校がしなければいけないことの他に問題事が出てくるので、できれば間口減というのは避けていきたいという
ようなお考えでした。
(吉本委員長) はい。ありがとうございます。
(澤田石部長) この件で補足のお話をさせていただきます。実は今、6月6日にお手元の書面を北海道教育長の方に要望書という形で出させていただくつもりでい
ますが、それに先立ちまして、道議会議員3名の先生方に、この趣旨をご
理解願いたく、訪問してお話しをしています。
それぞれ、若干趣旨は違いますけれども、まず、お二人のお話を聞きます
と、やはり間口減に対する地元の人々の姿勢について、今までの運動のあり
方が形骸化しているのではないかと、ともかく何か言わなければならないか
ら、こうやって文書をあげてきているだけで、本気で間口減に対しての考
え方を道に示しているのだろうか。両先生とも、いわゆる苫小牧の実態
というのは、胆振東地区ですから、白老、遠くは追分、穂別という形で各

公立高校がございます。そういう中に地域振興という意味合いがあって、どうしても追分・厚真、それから穂別の間口を減らす、あるいは廃校にもっていくというようなところまではいけないと。ただし、ずっと過去からの経過で、市内の間口を減らしてきているという状況で、このままでいいのだろうかということで、その内のお一人の方は、基本的には地域の振興と言いながら、統廃合という全体的な視野に立って、道教委に物申さなければいけないのではないかというお話もされております。

一方で残りのお一人の方の立場からすると、間口削減には反対だが、地域の学校がなくなるということについては、地域の人方に対しての配慮も欠けるのではないかと、そういうことも考えた上で行動していかなければならないのではないかというお考えももたれていると聞いております。

今までの話は電話で聞いたことをお話ししておりますが、議員さんの方からは本当に苫小牧のために頑張るのだけれども、逆に私どもの方の要望する側の市内の皆さんの気持ちを考えていかなければならないのではないかという話をされておりましたので、参考までにお話し申し上げます。

(吉本委員長) ありがとうございます。非常に誰もが自然な考え方とすれば、学級の間口減というのは、あっては困るとか、ましてや統合、もしくは廃校はとんでもないと言う、それは当然だと思うのですが、そこに、単なる苫小牧だけのエゴでこの申し出は得られないということだろうと思うのです。

他の地域は、それぞれ道立高校それなりの立場で色んなことで運動をしていらっしゃるし、様々な交渉も行っているのだろうと思います。これは、将来を担う高校生、もちろん中学を出てから高校へ進学する率が高いわけですが、現実的に少子化の問題と教育行政の制度的な問題、裏には財源も関わっているでしょうが、道との絡みがあるので、部長さんにおかれましては、情報が入りましたらまたお教えてください。

(澤田石部長) お一人の議員さんは、今回、道の文教経済委員になられて、先般、道教委

から将来の間口に関しての協議があり、その中で先ほど述べたようなお話しをしたということをおっしゃっていました。
(吉本委員長) はい。佐藤守委員さんどうですか、関連して。
(佐藤守委員) P T Aの集まりの中でも、毎年、署名を行っているのですが、全然意味がないというのが、各学校の会長さんから意見が出まして、事務局の方では、ここで賛成をとって止めますかという話までいったのですが、結論は出ないままに行うか、行わないか決まっていなようです。
結局、署名しても、今までの状況が変わっていないので、何か変わる方法はないのかということで、皆さんで意見を出し合ったのですが、先ほど部長さんがおっしゃられた議員さんが文教経済委員に昨年から入られていたので、聞いてもその時点では決まっていて、全然署名の意味がないということだったらしいです。
そういうようなことがあり、何か活動が形骸化しているということですので、どのような活動をすればいいのか、もっと具体的に出てくれば、P T Aの組織としても動きやすいのではないかと思います。
(吉本委員長) そうですね。
(教 育 長) 道教委が今発表しているのも、来年、子どもの数がこれだけ減るから、間口は苫小牧の場合、実に不明な0から1という言い方をしているのです。ということは、黙っていたら1になるかもしれないですが、黙っていないで何か言えば0になるかもしれないという何か微妙なことで、要するに、本来であればこの周辺を含めて、胆振東地区をどういうふうにしていくのかということを出した中で、苫小牧がこうなる、それでは大変だ、それぞれの町もどうなるのか、今は現状維持という中で皆、物申しているという形なのです。
ですから、道教委が具体的なビジョンをまだ出さないでいて、来年は減らすという言い方しかないもので、苫小牧としてはこれ以上のことは言えな

いで、いつも苫小牧に最後しわ寄せが来ているのではないかとこのところ
で、物申していくしかない状態で、今、来ているのです
ただ、来年度は20数名減りますが、再来年は33名増えるのです。だから、減ってまた増えるのに、今、削減してしまったら、それこそ、1年後
大変なことになりますから、ここだけはなんとか引っ張って、来年までは
なんとかそのままでいってくれと、その先になってくると間違いなく減つ
てきますから、そういう思いで気持ちは一致したのです。
早くビジョンを示してくれば、我々もどうなるかという面では良いと思
います。今、私たちの立場というのは、苫小牧を残して他を潰しても良い
よと、はっきりとそこまで言ってしまったらどうなるという問題がありま
す。だから言えないのです。ただ、はっきりと道教委が間口減の方向で、
といった時に我々もまた違った言い方が出てくると思いますが、そういう
微妙なところで政治的な部分もありますので、その程度に留めているとこ
ろです。ご理解願いたいと思います。
(吉本委員長) はい。ありがとうございます。
4 議 案 審 議
議案第1号 教育費補正予算について
(澤田石学校教育部長及び今田スポーツ生涯学習部長より 提案理由説明)
《学校教育関係(澤田石 学校教育部長)》
・ 歳入予算で、北海道からの受託事業である「問題を抱える子ども等の自立支援事業」に
係る委託金として、道支出金・教育費委託金・教育指導費委託金4,714千円の増額
補正。同額を歳出、教育指導費として計上し、不登校・暴力行為・いじめ・児童虐待等、
学校が抱える課題の未然防止、早期発見、早期対応等、児童・生徒の支援につながる効

<p>果的な取組みについて、自立支援サポーター及びコーディネーターを学校に配置して、</p>
<p>子どもの状況把握や関係機関との連携について、調査・研究をする事業を行う。</p>
<p>事業の主な内容は、嘱託コーディネーター、サポーターに対する報酬などの人件費で3、</p>
<p>920千円を見込んでいる。現時点での調査協力校として、大成小、光洋中、緑陵中、</p>
<p>啓明中に支援サポーター、凌雲中にはコーディネーターを配置して、効果的な取り組み</p>
<p>の実践研究を行う予定で考えている。</p>
<p>・ 苫小牧ライオンズクラブから特別支援教育の教材購入に充てて欲しい旨の指定寄付に</p>
<p>伴う歳入、寄付金・教育費寄付金・小学校教育振興費寄付金100千円の増額補正。</p>
<p>同額を歳出、小学校費・教育振興費の教材教具等教育活動費として計上し、19年度に</p>
<p>特別支援学級を開級した大成小、糸井小、日新小、ウトナイ小の使用する教材の購入費</p>
<p>に充てる。</p>
<p>《社会教育費関係（今田 スポーツ生涯学習部長）》</p>
<p>・ 地元出身の脚本家、水谷龍二氏の作品で夫婦印プロデュース「満月」公演の予算で、北</p>
<p>海道文化財団助成金1,140千円が出ることに伴う歳入、諸収入の増額補正。同額を</p>
<p>歳出、社会教育費・社会教育総務費の文化芸術振興事業費として計上する。市を經由し</p>
<p>て、夫婦印プロデュース「満月」公演実行委員会の事業経費に充てる。</p>
<p>(吉本委員長) はい。ありがとうございました。ただ今、平成19年度教育費の補正予算</p>
<p>につきまして、両部長さんからご説明がありましたとおりです。何かご質</p>
<p>問ございますか。</p>
<p>(佐藤守委員) このコーディネーターの関係は、毎年続いていくのですか。</p>
<p>(澤田石部長) これは、平成19年度と20年度の2ヶ年に限った事業でございます。</p>
<p>(佐藤郁委員) サポーターの人数はどのくらいですか。</p>
<p>(澤田石部長) 人数は4名でございます。コーディネーターが1名で、支援サポーターが</p>

3名という形で考えております。大成小と光洋中をつなげて1名のサポーターで見ていただきまして、残りをそれぞれの中学校に置くという形で考えています。コーディネーターが支援サポーターを全体的に掌握しまして対応していくという形で考えています。

— 原案どおり可決 —

議案第2号 文化財保護審議会委員の委嘱について

(人事案件のため、秘密会とする旨議決する)

5 協 議

第1号 全国学力・学習状況調査結果の公表について (村上指導室長より 概要説明)

- ・ 平成19年4月文部科学省のホームページに掲載されたものを参考に、資料を配布。
- ・ 公表資料については、文部科学省のホームページの掲載等による。
- ・ 提供する資料については、委託業者より、都道府県教育委員会・市町村教育委員会・学校に対して、調査結果を暗号化して格納したCD-ROMが送付される。いずれにしても委託業者から届くまではどのような様式で届くかは不明である。
- ・ 調査の実施から結果の公表までのスケジュールは、4月24日調査実施後、4月25日から5月中旬まで答案用紙回収、5月中旬から採点集計開始(採点会場:小学校全国7ヶ所・中学校都内2ヶ所)、7月中旬から分析開始・返却用個票作成開始、9月上旬に調査結果公表、各教育委員会や学校へ結果を提供する、という流れになる。

・ これらの状況から、今後、苫小牧市における結果の取扱いについて、教育委員会において協議する必要があるが出てくる。

(吉本委員長) はい。村上室長さん、大変ありがとうございました。選択肢が多々ある中で、スケジュール表でいきますと9月の月上旬に結果を公表すると載っています。教育委員会としては、調査結果の公表のやり方をどのようにして対応していくかということ、これから時間をかけてじっくりと考えていかなければならないというふうに思います。

そういうことで、今回はその程度の理解でよろしいですか。

佐藤守委員さん、何かありますか。

(佐藤守委員) 公表を行うとすれば、各校バラバラというわけにはいかないですね。

(村上室長) 学校としては、自分で判断できますので。

(佐藤守委員) ここですね、問題は。

(村上室長) 望ましいと言えるかもしれませんが、例えば、すべての学校が同じようにしなさいということについては、どうなのかなと思うところです。

(教 育 長) 学校の判断に対して、教育委員会で学校の方に「勝手なことをしてはいけません」という立場でもないのです。学校が主体的に考えられるから、どうなってくるか、教育委員会としても各学校どうするのか、というところに「ああしなさい、こうしなさい」というと何か越権行為みたくなってしまうから、そういう部分を逆に学校の校長先生方も心配されて、そうであれば、校長会の中でこういうふうにするかというふう考えた方が良いいのかなという発想はあるみたいです。私どもはそれに対しては、そうしなさいとは言えないのだということなのです。

(吉本委員長) ただ、これから時間が経過していく中で、それぞれ学校の事情もあるかもしれませんが、ひょっとしたら状況によっては校長先生や教頭先生

<p>がどう判断するかという上で、その時に教育委員会、行政として、場合によつては基本的にどういうふうに考えていますか、というようなキャッチボールが行われるのが現実なのではないかな、という気がするのです。</p> <p>もちろん、学校の判断の独自性というのが、ある程度尊重されている中であつて、これからの経緯で非常にその辺がわかりづらいところですけども、場合によつては、指導的な判断を仰ぐような状況も生まれてくるのではないのかなと思うのですが。</p> <p>これから、そういうことで周りの状況を少し考えながら、しかし、学校には本来、独自性を持たせていかなければいけないみたいなどころがある。</p> <p>(教 育 長) 今までは、教育委員会事務局で学校にこうしたら良いのではないかとあつたら良いのではないかとしていましたが、これからの時代は、教育委員さんそれぞれが「公表したら良いのではないかとか、「いや、それはすべきではない」とかあると思います。そういった議論を踏まえるということが前提にあるわけで、どちらかという、教育長の考え、事務方の考えで学校とやっていたというのではなくて、もっと市民全体のことを考えて、本市はどうかということを最終判断するのは教育委員さんだろうという部分でいくと、我々もその辺でやはり単に苫小牧市の教育委員会、教育長はこう考えるとかでは済まないということでじっくり論議して意見交流したいなと思っているのです。</p> <p>(吉本委員長) これから時間をかけながら、こういう議論を進めていきたいと思つてはいますが、よろしいでしょうか。また次回の教育委員会の上でもまた何かこの辺はどうなっているという部分がありましたら、教育長あるいは村上室長さんにお問い合わせいただいて、共通の認識をどうやって持つかという中々難しいですが。</p> <p>(教 育 長) 私どもとしましては、今、国がどういう発表の仕方をしてくるのか見えてきていない。北海道はどうするのかというのもわかりません。正直言</p>

<p>ますと道内各市は「おたくどうするの」、「どうするの」というふうに横を見ながら、皆さんの状況を聞いてからにしようというのが多いのです。</p>
<p>それで、今回、道教委はどうするのかということで、道内の都市教育長会議の考え方を事務局が集約して、道教委に対して都市教育長会議としては</p>
<p>こういう考えもあると間に入って検討するというような場面もありますので、その辺が今、動きつつあると思います。この前の5月10日に集まった時には、意見交流が1時間くらいあったのですが、最終的にお互いに確</p>
<p>認したのは、今ここで教育長が言うのではなくて、自分の市町村の教育委員さんの考え方がまずあるだろうということが一つ確認されたことと、公表の仕方といっても色んなパターンがあるから、じっくりと時間をかけなければならぬというのが話題になりました。そういうことで、まだ少し</p>
<p>時間がかかるかと思えます。</p>
<p>ところが、全国の教育長会議へ行きましたら、全国はなぜ9月の発表なのか、もっと早く発表しなさい、7月に発表しても良いのではないかということで、温度が違うのです。</p>
<p>(佐藤守委員) その学年に役立たないということですね。</p>
<p>(教育長) そうです。9月に発表したら、秋だろう。7月に発表すれば、弱いところをうちの町では、子ども達を夏休み中に授業時間をとってそこを補強するのだ。国は何を考えているのかと、こういう温度の違いがあるのです。または、その結果で夏休み中に保護者会を開いて、おたくの子どもさんはこういうところが弱いから、2学期始まるまでに頑張ってくださいというふうに出すのだとか、そうなってくるとだいぶ違うなと感じました。</p>
<p>(佐藤守委員) その程度で行うのなら、小学5年生と中学2年生で行うと良いですよ。そうすれば、来年に向けてしっかりとやってくれる。</p>
<p>(佐藤郁委員) 進路にも役立ちますよね。</p>
<p>(吉本委員長) わかりました。ありがとうございました。</p>

(教 育 長) 大いに色々な意見を出し合うということは必要だと思いますし、最終的には合議をもとにということになりますけれども、ただ、どういうふうに解釈するのかなと思っていたのですが、子ども達にその結果を返してあげたり、親に返してあげたりしなければ、これを実施した意味がないですから、その部分は伝えるというのは、いわゆる公表するかしないかの問題とは少し違いますから、何もしないというわけではなくて、最低限これは行って当たり前ということで、子ども達なり親に対してその結果なり学習状況だとかの関連を含めてこれは伝えるということで良いのでしょうか。室長。
(村 上 室 長) 個人票はそれぞれの所に来ると思いますので、それについては個人票の形で配布されなければならないものというふうに考えております。
(吉本委員長) そうですよ。最低限それはやはりやらざるを得ないし、実際やるべきだと思います。教育長のおっしゃるとおりで、それから先のことをどういうふうに考えるかということだと思います。
(教 育 長) そうすると例えば、国が発表する中の大規模校とか、中核都市、苫小牧はその他の都市になるのか、苫小牧がどの分類に入って出てくるのか。
(村 上 室 長) 中核市というのは、例えば人口30万から10万までという。
(教 育 長) 県庁所在地だとか。
(村 上 室 長) 北海道とか全部関係なくて一気にそういう括りで集まってきているので、何だかわからない。
(佐藤守委員) 逆にそうですよね。
(佐藤郁委員) そうですよ。
(村 上 室 長) 北海道としてというのはわかりやすいです。
(教 育 長) それにしても、国の平均点的なものは示されるわけでしょう。
(村 上 室 長) そうです。
(教 育 長) その出し方というのは、今の予想の中では一括の平均点なのか、政令都市の平均点、何の平均点という出し方をしていくのか。

(村上室長) 共通して記載していく中に、各設問について全国の平均正答率というのがありますから、例えば、1番の1に対して全国の平均正答率は69%でした、あなたはここが正解だったとか不正解だったとか、書けませんでしたねとか、そういうようなことが出てくると思います。これが一つわかるのと、全国児童生徒の合計正答数の分布グラフですから、26問あったら全国平均は15問ですよ、あなたは12問だから全国平均から比べると少し低いですよということになります。だから、すべての子ども達に個人票が配られた段階で分析しようと思えば分析できます。公表は道までですと言っているわけですから、大体自分の位置はわかりますし、道は公表するので道の平均点も出るわけですから、道の位置もわかると思います。あとは道が例えば支庁別にすれば、胆振の位置がわかるかもしれません。それから、苫小牧市が公表しますよと言えば、苫小牧でどれくらいの位置というのがわかるかもしれません。文部科学省は序列化をしないということは何度も繰り返して言っているのです。そのことを勘案していかななくてはならないことなのかなというふうに思います。

(教 育 長) 単純にどこの学校がトップと発表すれば、いかにも序列化ですよ。だから、それに対しては皆そこまではしなくてもいいのではないかというけれども、今の話を聞くと大体順番というのは見えてきてしまうのです。一方では専門家が見れば見えてくる。しかし、敢えて1位どこという言い方はしないでほしいという、ある意味ではなにか中途半端な言い方だとは思いますが。

わかる人は見えてくるから、もうそれ以上黙っていてもちゃんとわかる。ところが、単純に見えない人が情報開示を求めたら、ストレートに序列ができてしまうことを求めるということが起こってきて、それもまた困った一つの動きになってしまわないか。

(村上室長) そうです。苫小牧市に提供される資料の中には、いわゆる苫小牧市全体の

<p>ことも全部わかるわけですから、結局、教育委員会としてはそのデータを持つわけです。すべての市町村に提供されるわけですから、それを開示しなければならぬ状況になるのかどうかということも、どうなるかわかりません。</p>
<p>(佐藤守委員) 判例では開示しなければいけないというのが出ていますよね。</p>
<p>(村上室長) 出ていますね。大阪あたりで確か。けれども、道教委の最初の段階では、開示しないという方向ということが出たりしていて、色んな情報が錯綜している状況でもあります。</p>
<p>(佐藤郁委員) 難しいですよ。</p>
<p>(吉本委員長) そうですよ。</p>
<p>(教 育 長) 微妙なのです。</p>
<p>(佐藤守委員) データがどこかで一人走りされたら、どこでデータが漏れたのだという話で、本当におかしなことになりますよね。</p>
<p>(佐藤郁委員) 自己申告したがる所もあるでしょうし。</p>
<p>(村上室長) 学校も自分の学校の資料は持つわけですから。</p>
<p>(佐藤守委員) 塾でも、良いところをとってうちはすごいですよとか。</p>
<p>(教 育 長) 是非、そういう課題を抱えているということ。</p>
<p>(佐藤守委員) 8月末ぐらいまでですか。</p>
<p>(教 育 長) そのくらいで良いと思います。</p>
<p>(吉本委員長) よろしいでしょうか。非常に難問を抱えているような気がして、ずっと予測がしづらい。</p>
<p>(教 育 長) 毎月、これを引っ張って話しをしながら、新しく入ってきた情報を室長の方から提供しますので、よろしくお願いします。</p>
<p>(吉本委員長) 一つよろしくお願いします。村上室長さんありがとうございました。</p>
<p></p>
<p></p>

6 そ の 他

(佐藤守委員) この前、新聞等に出ていました給食センターの意見募集、今月22日に締め切られたようですが、どの程度ありましたでしょうか。

(澤田石部長) 5月8日から22日の15日間ということで、意見を募集いたしまして、提出意見が53件ございまして、6団体・47個人からいただいております。

これにつきましては、先般、審議会がございまして審議会の委員さんの方には、一応、原文のままお出ししております。もちろん名前の方は伏せさせてもらっております。

内容を少し見ますと、自校式を求めるという方と分割方式を求めるという方、PFIに賛成の方は大体2人くらいでございます。ほとんどが自校式で公設・公営という形で、給食の安全と言いますか、そういうことは公設で行う責任があるだろうというような趣旨のことを述べられております。

(佐藤守委員) 現状で満足している人は、逆に意見を出さないというのもありますね。

(澤田石部長) そうですね。傾向を見ますと今、おっしゃるような状況にあります。

(教 育 長) その方向に対してブレーキをかけようというような意識はどうしても出てくると思います。

(澤田石部長) 現実よりも理想をとという方と、それから現実に対しての批判と。

(佐藤守委員) 江別も自校式をしようとしてだめでしたね。

(教 育 長) 江別ではなくて恵庭ですね。

(佐藤守委員) 恵庭でしたね。

(澤田石部長) 恵庭が自校式、炊飯方式ですね、これが市長さんのマニフェストの一つとして出されたのですが、行くとすれば炊飯だけということをして市長さんはおっしゃっていたようで、そうするとおかず等は調理場のままという形になるわけで、結果的にはお金がかかり過ぎるのです。そのようなこともあって、時期尚早ということで撤回されたようですが。

(教 育 長)	一般市民の方はわからないと思いますけれども、出来上がったご飯を保温の発泡スチロールに入って来ていますから、ご飯は温かいです。湯気が立っています。それから、温食は最初だったら飲めないくらい熱いです。ですから、冷えるだとか何だかという心配は、今の体制でも全く問題はないと思っていますのです。
(澤田石部長)	先般の審議会の中でも、食缶容器が古くなっているという所が何校かありまして、その辺の所で遠くへ配送されたものは時間的に若干冷えるという話をされておりました。それは今でも食缶容器を取り替えれば良いということで、本来的には私どもそういうところに目を向けて対応しなければならぬと思っていますのです。
(教 育 長)	距離が遠かったりすると配送するのに、早めに行って早く置いてしまうという問題があります。距離が近くなれば、東部の方もその問題がなくなると思うのですが、私は大体給食というのは、各学校に11時過ぎぐらいには届いていますから、実際に食べるのはその1時間後で、それでも熱いくらいですから、取えて自分の学校でご飯を炊いて、湯気を上げて匂いをさせているよりはずっと良いと思うのです。
(吉本委員長)	澤田石部長さん、このお話ししたことというのは、ある程度文書化されて公表されるのですか。
(澤田石部長)	これにつきましては、やはり市民意見を募集した段階で、応募件数と要約した主な意見という形で、こういう意見がありますと、今言ったように、三種類程度の意見がございますので、大半がどうだというのではなくて、こういう意見、こういう意見、こういう意見というのが出てきておりますということをホームページ上に載せたいと思っております。ただ、あくまでもパブリックコメントはそれに対して答えていくということになるのですが、それを行う考えはございませんし、審議会の方でこういうことをふまえて、ご討議いただくということで考えております。

(吉本委員長) わかりました。
(澤田石部長) 最終的には、審議会の答申を経て、教育委員会としてどの方式をとった方が良いかということは決めていただかなければならないと思います。
(吉本委員長) 9月ですか。
(澤田石部長) 8月の上旬くらいまでには答申を出していただきますので、8月の末ぐらいには、その辺のことも含めてご相談をさせていただくことになると思います。
(教 育 長) 課題が9月前後にたくさんありますが。
(吉本委員長) そういうことが、あつと言う間に来ますから、そういうことでの判断材料の一つとして、今、ちょうど佐藤守委員さんから質問が出たことなので、そのものが活字でいただければと思ったもので、お尋ねしたわけです。
(澤田石部長) 大体、要約を作成しまして、委員会にはお出しできるようにしておきますし、また、要約したものをホームページ上で出そうと思っております。
(吉本委員長) その他、議案をお持ちの方、おいでですか。ありませんか。(一同「はい。」の声)
7 委員会閉会の宣言 (吉本委員長) …16時40分
以上のおり会議の概要を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

